

童

2016年10月31日。

大地のスロープの樹木が、いよいよ色付き始めました。やはり広葉樹はいいですね。ミズキやケヤキやさくらなど、一本一本色付き方が違うのも、木の個性があっただけですね。特に、子供たちが「赤いサンゴ」と呼んでいるミズキは、スロープかけっこスタート地点や五右衛門風呂にサンゴを落としてとても美しいですね。

今年は、ドングリやクリの当たり年であり、地面をとて賑やかにしてくれましたが、残念ながら、木の上のアケビは、一つもお目にかかれぬ寂しい面もあります。

また、この秋は「リヤカー」が大ヒット。数年前にたい焼き屋台でデビューしたのですが、台所カラパタールにしっかり収まり、ここ2年は駐車場に入ったままです。「大人の効率便利性と子どもの幸せは反比例」の法則に照らし合わせ、今まで軽トラに頼っていた事を、時間がかかっても過程が絶対面白いリヤカーに光が当たりました。初デビューは、花子さんを田んぼまで運搬。その後、米俵33俵(約1トン)、わら、サツマイモ、とのおみや脱穀機械、リンゴ箱から人間運搬ヒッチハイクまで、そして、今度の子ども祭り観光旅行では、まるで「じふた」のように、軽トラ2台と一緒に活躍予定です。リヤカーのおかげで、ゆっくり秋の景色を眺めながら、子供たちとゆっくり話しながらの時間は最高です。坂道を皆で引っ張り上げる姿は、腰つきが素晴らしく、まさに「御柱」か「倉井神社の石段を引っ張る神楽です」地下足袋にリヤカーで秋の田園を歩く姿は、涙が出るくらい美しいです!! 風物詩です



【夫婦2人】

「無事着いたよ!! 連絡するの忘れてた」と昨日、雄飛&はっちからネパールに着いた(着いていた)という連絡がありました。前日、海岸でキャンプしている場所に、すぐ近くに住むはっちの母親が我がテントに訪れてくれ、連絡がないと話していたばかりの翌朝の出来事。朝、代わって父親も訪れて、「娘から連絡があった」と話してくれました。

青山家もはっち家も、奇遇にも同年齢で、現在夫婦2人。父親とも海岸テントでホットサンドを食べながらゆっくり話すと、ほとんど同じようなやんちゃをしてきたのでびっくり。高校時代のバクも同じ!! ヨーロッパの2か月バックパッカー(まさにその時代の草分け)、スキー部に、登山。やはり、この家庭にして、あの娘か!!

雄飛達は、2か月間ほど、ネパールインドを回ってくる予定ですが、ひょっとするとネパールだけになるかもと言いつつ、いつもの身軽さで行ってしまっただけ。「これからの生活の原点、源流を考えてくる」と。彼らからは、本当に豊かさを感じます。囚われがなく、毎日その瞬間を幸せに自由に感謝して生きているからです。「健全で透き通るような人生」物欲や時間スケジュールに縛られ、依存している自分たちにとって、大きな問題を彼らと話していると、恥ずかしくなることがたくさんあります。「金 将来性 世間体」!! 彼らの部屋には、干し柿 干し芋 塩 栗 などなどが所狭しと並び、毎日毎日手間暇かけて楽しそうに作っていました。

一緒に住んでいる青ちゃんの父母は、「インドへは仕事に行くのか」「仕事も働きもしないで毎日遊んでばかりで」といつもぐうたらな2人の小言を言っているようです。わかりますね、心配するのは。はっち曰く「お金って、こんなに使わないものなんですね!!」

インドでは、のんのんと合流するかも。ご心配ご迷惑をおかけしたのんのんも、素晴らしい山小屋生活を終え、下山してそのまま、ほよほよさんの離乳食講座を立派にやり遂げ(冊子ぜひご覧ください)、間髪入れずに、風のようにタイへ一か月ほど旅立った。アシュラムに入り、ヨガを学んでいるらしい。こちら、時折元気になっているという連絡が来るが、様々な世界を体験するごとに、成長していくのが確認できて面白い。自分の感情や思いを素直にストレートに表現、体現していく人生、彼女も囚われもなく解放されているだけに、私たちの世代の価値観では計れない。タイから帰ってきて今度はどこへ高飛びするのか? 一説によると、どこかおもしろい旅館かペンションのような処へ行くという未確認情報が飛び交っている。ソソは、一番雄飛と小さい頃から仲が良かった。「もう、入る余地がない。あまりにきらきらし過ぎていて」と、雄飛&はっちを見てこぼしていた。果たして、インドで再会なるかどうか。

月に一回の食事会で、ピアノや授業の話でじっくり顔を合わせる雄河。雄飛&はっちと同じ家に住んでいながら、自活自立のための仕事と専門学校の勉強とで、ほとんど顔を合わせないので、月に一回、落ち着いて話せるレストラン(妻の楽しみな選択)を選んで、じっくり近況を聞いている。ピアノや授業が厳しく、次第に幼稚園教諭や保育士資格をあきらめていく同級生が多い中で、「俺って、もしかするとピアノが得意かも」と言って朝晩頑張っているらしい。同級生は、弟の雄和と同じ年齢だけに、「まだ皆、そんな年齢だから」と伊達に社会経験を積んできただけではない言葉か。大らかな寛容性も持ち合わせているが、小さい頃から勉強は嫌いであったが、気のまわり方やマネージメント能力やプロジェクト企画能力は目にはみえるものがあり、自分の好きなものを見つけたら、頭の回転が速いだけに素晴らしい勉強や学び、頭の良さを発揮するだろうと思っていたが、今、まさにそんな時期を迎えているようだ。幼稚園などに実習に行き始め、鼓笛隊や運動会の練習や早期教育など、大地とは正反対の教育を見てきているが、決して、それが大地とは違う、おかしい、などという批判などは全く言わないところが素晴らしい。同級生も、大地へ連れてきているが、「まだまだ 大地を見るには早すぎるかもね」と言っている。いつの間にか、才覚のある器の大きい大人になっている。

末っ子の雄和。「やはり、家は積水ハウス!!」「何でインドなの?、俺ハワイがいい!!」と我が家で一番甘やかされ、高校卒業時には、髪を赤く染め(現在でもチャライ頭だが)チャライ子ども路線を歩むかと思いきや、根っこは、堅実でやはり兄姉を見てきたか。夏休みの海外旅行先はタイ(本人曰く、タイが一番安い)これもツアーではなく、兄に相談。長野に帰省するたびに、「やはり長野はいい、落ち着く、空気がいい 最高」と影でつぶやいている。

雄飛への今年の誕生メッセージ「雄飛の生き方にはいろいろ可能性を感じてすごく楽しそうではないかと感じます。兄弟ながら羨ましいと思うわ・・・」雄和も、小さいころから雄飛のことが一番好きだし、今も相談相手になってもらっているらしい。父親の兄姉に対する厳しさの面をたくさん見てきているだけに、家庭内世渡り上手でもあり、鍼灸の勉強やアルバイトも頑張っているという情報が、都内へ行って雄和のシェアハウスと泊まってきた妻や兄弟から入ってくる。大好きな野球もクラブでやっており、ロン毛の茶髪が帽子の後ろから見えるプロ野球選手のような風貌で、この秋からキャプテンに選ばれて、楽しんでいるらしい。

そんな子供たちの独立独歩の歩みの中、ふと気づくと、夫婦2人で夕食を共にしている多さに(ほぼ毎日)に、最近改めて気付く。畑を本格的に始めたり、みずぎくらでじっくり本を読んだりする時間が格段と多くなり、これっていつの間にか老後!!(隠居)とハッとすることがあるが、朝になると、元気なまもなく 孫 のような子どもたちが現れ、子育て時代の再開、再現が始まります!! 妻は、読書キャンペーンで一段とお話、絵本に盛り上がり、青ちゃんは、リヤカー、建築、農作業などで子どもたちに過酷な環境を与え、結局、日中は、相変わらずせかせかと動き回っている毎日。

でも、確実に違うのは、大地の美しさ、大地の歴史を、みずぎくらの2階のラウンジから、大地の全景を見ながらじっくりと感慨深く味わう時間が多くなってきたこと。本当に美しい場所になったと自画自賛!!